

# 第44章

## 3 ニーファイ 20 - 22 章

### はじめに

義にかなった両親はだれでも、自分の子孫が自らの力で神を知り神に忠実であるようにと望んでいる。神はアブラハムとその子孫に、末日において彼らの子孫が福音の祝福にあずかり、安全な所に集められると約束された。御父はこれらの約束をニーファイ人に教えるよう救い主に命じられた。

集合の原則には、人々をある特定の国々に集める以上のことがかかわってくる。人々が教会と出会い、教会に加わる時に起こる霊的な集合も含む。散乱することによって、イスラエルは自分たちの神に関する知識、神の福音、神権、神殿、そして救いの真理を失った。しかし、御父は、末日にあってイスラエルに手を差し伸べ、御自身の福音、神権、神殿、永遠の命に通じる道をお与えになると約束された。天の御父は、御自身のすべての子供たちに福音の祝福をお与えになりたいと願っておられ、この末日の集合を成し遂げようと助けておられる。

### 注解

3 ニーファイ 20:1 わたしたちは心の中で祈り続けるべきである

• ニーファイ人が祈り終わると、救い主は彼らに心の中で祈り続けるという重要な助言を与えられた。十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老も同じように宣言している。

「預言者たちは長年にわたって、謙虚に、しばしば祈るよう勧めてきました。……

祈りは声を出さずにささげることでもできます。心の中で祈ることができます。特に、言葉が考えの妨げとなってしまうときはそうです。」(『リアホナ』2003年5月号, 7)

• 十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長は次のように教えている。

「祈ることを学んでください。頻繁に祈ってください。思いを尽くし、心を尽くして祈ってください。ひざまずいて祈ってください。……

祈りは皆さん一人一人にとって天への鍵<sup>かぎ</sup>です。そして錠は扉のこちら側にあるのです〔黙示3:20参照〕。」「(『聖徒の道』1995年1月号, 64 - 65)



### 3 ニーファイ 20:8 - 9

救い主<sup>せいしゅん</sup>は聖餐にあずかる人にどのような約束をしておられるか。この約束がそれほど大切なのはなぜか。

### 3 ニーファイ 20:8 - 9 御霊<sup>みたま</sup>に満たされるという聖餐<sup>せいさん</sup>の約束

• 聖餐にあずかることに伴う祝福に関して、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は次のように教えている。「毎週教会に出席することによって、主が命じられたように、聖餐にあずかる機会が与えられます(教義と聖約59:9参照)。わたしたちが適切な準備と態度で聖餐を頂くならば、それによって、わたしたちのバプテスマのときの清めの効果を更新することになり、また、いつも御子の御霊を受けられるようになるという約束を頂くのにふさわしい者となることができます。この御霊<sup>あかし</sup>、すなわち聖霊の使命は、御父と御子について証をし、わたしたちを真理へと導くことです(ヨハネ14:26; 2 ニーファイ31:18参照)。証と真理は、わたしたちが個人的な改心をするのに不可欠なものです。同時に、毎週聖約を新たにすることに対する最良の報いでもあります。生活の中で日々決断をするとき、また、わたし自身の霊的な成長を考えると、わたしはその約束が完全に成就していることを実感しています。」(『リアホナ』2002年7月号, 37)

• また、オークス長老は次のように助言している。「わたしは、この非常に重要な聖餐の聖約の更新をきちんと実行していない兄弟姉妹に対して、大管長会の言葉を借りて申し上げます。『立ち返りなさい。そして主が備えられたテーブルに着き、聖徒の交わりという甘く、心を満たしてくれる木の実を再び味わってください。』(Church News, 1985年12月22日付, 3) 聖餐を受けることによってわたしたちが『満たされる』(3 ニーファイ20:8。3 ニーファイ18:9も参照)と言われた救い主の約束、すなわち『御霊に満たされ〔る〕』(3 ニーファイ20:9)という約束を受けるにふさわしくなるうではありませんか。この御霊<sup>みこころ</sup>すなわち聖霊は、わたしたちの慰め主であり、方向を示し、御心を伝え、わたしたちの心の思いを伝えてくださる御方であり、証人であり、清めてくださる御方であり、わたしたちが永遠の命に向かってこの世を歩むときに間違いなく導き<sup>きよ</sup>め、清めてくださる御方です。」(『聖徒の道』1997年1月号, 69)

### 3 ニーファイ 20:11 - 13 イザヤはイスラエルの集合について書いた

• イエスはニーファイ人だけでなくわたしたちにもイザヤの言葉を調べるように命じられた。イザヤの預言が成就していることから分かるように、神はイスラエルの家と交わした聖約を守っておられる。『聖句ガイド』には「イザヤの預言の多くは<sup>あがな</sup>贖い主の来臨について述べたものであ[る]」と説明されている（「イザヤ書」34）。また、イザヤ書のおもなテーマの二つとして、イスラエルの散乱と集合が挙げられる。

贖い主の教えとイスラエルの集合は密接な関係がある。神がイスラエルを散乱させられたのは、彼らが罪を犯し、神を受け入れなかったからである。しかし、贖いは彼らにも神と和解し、罪を免除され、霊的にも物理的にも神のもとに引き寄せられる機会を与える。

• イスラエルの集合についてもっと知りたい場合は、付録から「イスラエルの集合」（400 ページ）を参照する。

**3 ニーファイ 20:11 - 13。**  
 集合の時期を知る鍵は何か（3 ニーファイ 21:1 - 7 参照）。集合において、わたしたちはどのような役割を果たすか（教義と聖約 88:81 参照）。

• 救い主は、散乱したイスラエルを集めるという御父の聖約を果たすことについて語っている。イスラエルとはだれのことだろうか。なぜ散乱させられたのだろうか。主はアブラハムに、彼の子孫は福音と神権を与えられ、それらを通して、地球のすべての民族は祝福を受けると約束された（アブラハム 2:9 - 11 参照）。この約束はアブラハムの息子イサク（創世 26:3 - 5 参照）、イサクの息子ヤコブ（創世 28:12 - 15 参照）、ヤコブの子孫、すなわちイスラエルの子供たちについても更新された。

悲しいことに、イスラエルの子供たちは神に対して罪を犯し、これらの約束を失った。最終的には、神の警告の成就として、彼らは約束の地から追放され、全世界に散乱させられた。しかし、主は彼らを見捨てられなかった。天の御父は、彼らに関して、いつの日か福音を教えられ、約束の地に集められると約束しておられる。この約束は、神はイスラエルの子供たちを集め教えられるという神が交わされた聖約の一部である。

• スペンサー・W・キンボール大管長（1895 - 1985 年）は、福音の聖約を受け入れることによってわたしたちは集合

の律法に従うと説明している。「イスラエルの集合は、真の教会に加わることで真の神を知ることになることから構成されます。……したがって、だれであれ、回復された福音を受け入れた人、現在、母国語で、また、居住国の聖徒とともに主を礼拝しようと努力している人は、イスラエルの集合の律法に従い、この末日の聖徒に約束されたすべての祝福を受け継ぐことになります。」（*The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編〔1982 年〕, 439）

• 初期の教会で、指導者は改宗者に、オハイオ州、ミズーリ州、イリノイ州、ユタ州などの中心地で聖徒と合流するよう勧めた。今日、聖徒は自分の住んでいる国で教会を確立するように指導されている。

「主は今日の時代において、神殿の数を増やすことも含め、福音の祝福を世界の多くの地域にもたらすことがふさわしいと考えておられます。そこでわたしたちはこれまで続けてきた勧告を再度強調し、アメリカ合衆国に移民するのではなく母国にとどまるように教会員の皆さんにお願いしたいと思います。……」

世界中の教会員の皆さんが母国にとどまり、母国における教会の確立のために働くならば、大いなる祝福が彼ら個人に与えられ、それらが総体的に教会への祝福ともなるでしょう。」（大管長会からの手紙、1999 年 12 月 1 日付。ディーター・F・ウークトドルフ『リアホナ』2005 年 11 月号、102 も参照）

• 七十人のダグラス・L・カリスター長老は、末日におけるイスラエルの集合の目的と過程について次のように述べている。「現在の集合は、おもに霊的なものであり、地理的なものではありません。キリストは、末日に『〔御自身の〕教会を設け』『〔御自身の〕民……を築き上げ』『彼らの中に〔御自身の〕シオンを設ける』と宣言されました（3 ニーファイ 21:22; 3 ニーファイ 20:21; 3 ニーファイ 21:1）。主が現代において御自身の教会を設けられるときに、人々は自分の国を離れることなく、福音を学び、『主なる彼らの神を知ることになる』のです（3 ニーファイ 20:13）。回復された教会の初期の時代における公式の発表とは対照的に、現在の指導者は、今日における集合はそれぞれの国、それぞれの言語の中で行われると宣言しています。1 世紀前に比べ、大勢の聖徒と物理的に近くなければならない必要性は少なくなりました。教会の機関誌や衛星放送が距離と時間を埋め、教会全体の一体感を生み出しているからです。だれでも同じ鍵、儀式、教義、<sup>かぎ</sup>霊的な賜物<sup>たまもの</sup>にあずかることができるようになったのです。」（“Book of Mormon Principles: The Gathering of the Lord's Faithful,” *Ensign*, 2004 年 10 月号、59）

### 3 ニーファイ 20：14，22 受け継ぎの地

• イエスがニーファイ人に教えられたことであるが、天の御父はニーファイ人にアメリカの地を受け継ぎとして与えられた。リーハイも約束の地に到着したとき、この約束を受けた（2 ニーファイ 1：5 参照）。その約束はヤコブが次のように語ったときにヨセフに与えた祝福を確認するものだった。「あなたの父の祝福は永遠の山の祝福にまさり、永久の丘の賜物にまさる。」（創世 49：26）「永久の丘」という言葉は西半球を指している。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長（1876 - 1972 年）は次のように説明している。「主は……アメリカを、ヤコブの息子ヨセフに永遠の所有として与えられた。ヨセフの子孫は罪から洗い清められて、復活して出て来ると地球のこの部分を受け継ぐであろう。この地は永遠に彼らのものである。」（*Doctrines of Salvation*, ブルース・R・マッコンキー編, 全 3 巻 [1954 - 1956 年], 第 1 巻, 88）

### 3 ニーファイ 20：21 - 22；21：23 - 29 新エルサレムはアメリカに築かれる

• シオン、すなわち新エルサレムは、物理的にも霊的にも安全な所となる。救い主は、末日について語られたときに、「聖なる場所に立 [つ]」（教義と聖約 45：32 参照）ように勧められ、シオンとそのステークにおける安全を約束された（教義と聖約 115：6 参照）。救い主は弟子たちに、シオンの都、すなわち新エルサレムは、再臨の先駆けとなる時代にあつて、「平和の地、避け所の都、……安全の地」になると教えておられる（教義と聖約 45：66 - 71 参照）。



信仰簡条 10 条にはこう述べられている。「わたしたちは、イスラエルの文字どおりの集合と十部族の回復とを信じる。また、シオン（新エルサレム）がアメリカ大陸に築かれること、キリストが自ら地上を統治されること、そして地球は更新されて楽園の栄光を受けることを信じる。」

別の機会に、預言者ジョセフ・スミス（1805 - 1844 年）は次のように教えている。「シオンを築くということは、あらゆる時代の神の民が関心を示してきた大義である。預言者、祭司、王たちは、特にこのテーマについて語るのを喜びとした。……この末日の栄光、すなわち『時満ちる神権時代』を、……見てそれに加わり、前進させるのは、わたしたちの任務である。これこそまさに暗闇の力を減らし、地球を更新

し、神の栄光と人類家族の救いをもたらすよう定められた業である。」（*History of the Church*, 第 4 巻, 609 - 610）

### 3 ニーファイ 20：22 神はわたしたちの中におられるであろう

• ニーファイ人にシオンすなわち新エルサレムについて教えられたとき、救い主は御自身の民の「中にいる」と約束された（3 ニーファイ 20：22）。主は教義と聖約の中でも同じ言葉を用いておられる。

「しかし見よ、まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの目はあなたがたのうへにある。わたしはあなたがたの中にいるが、あなたがたはわたしを見ることができない。

しかし、あなたがたがわたしを見て、わたしのいることを知る日がすぐに来る。暗黒の幕が間もなく裂かれるからである。清められていない者は、その日に堪えられないであろう。

それゆえ、腰に帯を締めて、備えなさい。」（教義と聖約 38：7 - 9）

神がシオンの中におられるであろうという約束は、神がシオン（新エルサレム）の神殿におられるということ、また「〔神殿に〕入ってくる心の清い者は皆、神を見るであろう」ということと関連がある（教義と聖約 97：16 参照）。

### 3 ニーファイ 20：23 - 24 「主なるあなたがたの神は……預言者を一人お立てになる」

• 申命 18：15 で、モーセは、将来いつの日か「あなたの神、主はあなたのうちから、あなたの同胞のうちから、〔モーセ〕のようなひとりの預言者をあなたのために起されるであろう」と預言している。3 ニーファイ 20：23 - 24 で、救い主はその預言者とは自分のことであると語っておられる。これはメシヤの降臨に関するきわめて重要な預言なので、旧約聖書、新約聖書、モルモン書、教義と聖約、高価な真珠に記されている（申命 18：15 - 19；使徒 3：22；3 ニーファイ 20：23 - 24；教義と聖約 133：63；ジョセフ・スミス—歴史 1：40 参照）。

### 3 ニーファイ 20：25 - 27 聖約の子孫となる

• イエスはニーファイ人を「聖約の子孫」（3 ニーファイ 20：26）と呼んでおられる。ラッセル・M・ネルソン長老は、救い主がここで言っておられるのはどの聖約のことか、また、この言葉がわたしたちにどのように当てはまるのか次のように説明している。

「主が最初にアブラハムと交わり、イサク、ヤコブに再確認



された聖約は、何にも勝って重要です。……

わたしたちも聖約の子孫です。昔の人々のように、聖なる神権と永遠の福音を受けました。アブラハム、イサク、ヤコブはわたしたちの先祖で、わたしたちはイスラエルの子孫です。福音と神権の祝福と永遠の命を受ける権利があります。地の国々は、わたしたちの働きにより、またわたしたちの子孫の働きによって祝福されます。文字どおりのアブラハムの子孫と、養子縁組によってその一族に加えられた人々は、これらの約束された祝福を受けます。ただし、主を受け入れて、戒めに従う必要があります。』（『聖徒の道』1995年7月号、36-37参照）

### 3 ニーファイ 20:29 エルサレムの回復に関する預言

・ユダの部族とエルサレムの都の回復は、旧約聖書とモルモン書の預言で重要なテーマのように思われる。わたしたちの神権時代に、主はこう宣言しておられる。

「だから、異邦人の中にいる人々はシオンに逃げなさい。

ユダに属する人々はエルサレムに逃げなさい。これらは主の家の山である。」（教義と聖約 133:12-13）



ユダの回復について、預言者ジョセフ・スミスは次のように証している。<sup>あかし</sup>「ユダは帰り、エルサレムは再建され、神殿も再建され、水が神殿から流れ出て、死海の水は清められなければならない。都と神殿の壁を再建するにはしばらくの時間がかかるであろう。これらすべては、人の子がその御姿を現される前に起こらなければならない。」（*History of the Church*, 第5巻、337）

### 3 ニーファイ 20:29-33 ユダヤ人は信じ、集合する

・1841年10月24日、十二使徒定員会のオーソン・ハイド長老（1805-1878年）は、オリブ山の山頂で全世界に散乱しているユダヤ人のために使徒の祈りをささげた。その祈りがささげられた当時、パレスチナに住んでいるユダヤ人はごくわずかだった。また、政治的にも、ユダヤ人がそこに集合できるなどという希望はあまり持てないような状況だった。しかし、そのとき以来、多くの特筆すべき出来事が起こった。

イスラエルの近代国家が誕生し、ユダヤ人の「祖国」となったのである。この「集合」が主の祝福によってもたらされたことは歴然としているが、それがモルモン書の預言者たちによって預言されたユダヤ人の完全な集合ではないことも明らかである。



クラーク・ケリー・ブライズ、© 1996 LRI

十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老（1915-1985年）は、ユダヤ人が現在、祖国へ集合しているのは、この預言の成就ではなく、政治的な集合だと説明している。「周知のとおり、現在、多くのユダヤ人がパレスチナに集合し、そこで自分たちの国家と礼拝の方法を有している。しかし、そのすべてはキリストを信じること、あるいはキリストの教えられた永遠の福音に含まれる律法と儀式を受け入れることは一切関係ない。これは聖文で述べられているユダヤ人の末日における集合だろうか。いや、そうではない。この点に関して、洞察力のある人はだれも誤解しないようにしなければならない。この祖国へのユダヤ人の集合、一つの国家、一つの王国への組織化は、預言者たちが約束した集合ではない。古代の約束を成就するものではない。人々がこうして集まっても、真の教会、古代のメシヤの群れに集合しているわけではないからである。」（*The Millennial Messiah* [1982年]、229）

・大管長会のマリオン・G・ロムニー管長（1897-1988年）も、ユダの集合について語っている。ロムニー管長は、ユダヤ人は御父によって受け継ぎの地に集められる前に何をしなければならないか、この点について教えてくれる聖文をモルモン書の中から選んで読んだ。これらの聖文から、わたしたちは次のことを知ることができる。すなわち、ユダヤ人は、「もはやイスラエルの聖者に心を背けなくなる」（1ニーファイ 19:15）とき、「自分たちの贖い主を知るようになる」（2ニーファイ 6:11）とき、「神のまことの教会と群れに回復され[る]」（2ニーファイ 9:2）とき、「わたしをキリストであると信じる」（2ニーファイ 10:7）とき、キリストが神の御子であることを信じ、贖罪を信じ、<sup>あがな</sup>「キリストを信じ、純真な心と清い手をもってキリストの名により天の御父を拝し、もうほかのメシヤを待ち望まない」（2ニーファイ 25:16）とき、「わたしの完全な福音が彼らに<sup>の</sup>宣べ伝えられ」「〔救い主の〕名によって父に祈るようになる」（3ニーファイ 20:30-31）とき、そのときにこそ自分たちの受け継ぎの地エルサレムに集合するのである。

「モルモン書の預言者たちによるこれらの預言は、イスラエルの家が受け継ぎの地へと回復されるのは、彼らがイエ

ス・キリストを贖い主として受け入れる合図であるということとを完全に明らかにしています。このことをわたしはイエス・キリストの御名によって証します。」(Conference Report, 1981 年 4 月, 21 で引用。19 - 20 も参照)

### 3 ニーファイ 20:35 神はその聖なる御腕を現される

• この言葉はどういう意味だろうか。「父はその聖なる御腕を……現された。」(3 ニーファイ 20:35)「古代において、男たちは戦いの腕、すなわち右腕の肩からマントを脱ぎ捨ててことで戦闘に備えた(詩篇 74:11)。キリストの再臨のとき、神はすべての人が御自身の力を見るように、その御腕を現される(教義と聖約 133:2-3)。」(ドナルド・W・パリー、ジェー・A・パリー、ティナ・M・ピターソン、*Understanding Isaiah* [1998 年], 466)

• 今日、主は末日における偉大な回復の業に御自身の力を現された。十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老(1926 - 2004 年)は、このことは、偉大な出来事が起こった教会の初期の時代と同様、今日においても真実であると教えている。「さて兄弟の皆さん、教会の歴史の中において、『この時代〔は〕皆さんの時代』です(ヒラマン 7:9)。どのような時代か、よく注目しましょう。主が『その聖なる腕をすべての国民の目の前に現』されるのが特に見える時代です(教義と聖約 133:3)。また神が御業を『速やかに行』われる時代です(教義と聖約 88:73)。また、主は『選民のために』末日を『縮め』られます(マタイ 24:22)。そこで、<sup>かんなん</sup>艱難の期間が短縮されるでしょう(ジョセフ・スミス・マタイ 1:20 参照)。さらに、『すべての物事が混乱し』ます(教義と聖約 88:91)。そのようなとき、キリストに頼る者になるための道を歩んでいる人々だけが、霊的なバランスを保つことができるのです。」「(『聖徒の道』1992 年 7 月号, 44)

### 3 ニーファイ 20:36 - 37 「力を着よ」そして「あなたの首の縄を解き捨てよ」

• 教義と聖約 113 章は「力を着よ」という言葉の意味について、末日の神権者が「神権の権能をまとうことであり、……それを血統によって受ける権利を〔彼らは〕持っている」ということだと説明している(教義と聖約 113:7-8)。「〔あなたの〕首の縄とは、シオンに下された神ののろい、すなわち、イスラエルの残りの者が異邦人の間に散らされた状態にあるということである。」(教義と聖約 113:10)

福千年の時代へと向かう最終的な移行期間について、ブルース・R・マッコンキー長老は救い主の言葉をこう説明している。「イエスがイザヤ書第 52 章を福千年と関連付けられたことは、すでに明らかである。そこには次のような叫び

が記されている。『シオンよ、さめよ、さめよ、力を着よ。聖なる都エルサレムよ、美しい衣を着よ。割礼を受けない者および汚れた者は、もはやあなたのところに、はいることがないからだ。』わたしたちが語るこの時代に、星の栄え的な意味での清くない者は一人もいなくなるであろう。邪悪な人々は主の来臨の輝きによって滅ぼされるからである。また、たとえで言っているわけであるが、割礼を受けていない者は一人もいなくなるであろう。なぜなら、聖なる都の祝福を求める人であるならばだれもが、この都の所有者である主の計画と目的に一致するからである。』(*Millennial Messiah*, 315)

### 3 ニーファイ 20:36 - 37, 41

この聖句で救い主はわたしたちにどのような助言を与えておられるか。どうすればその助言に従うことができるか。

### 3 ニーファイ 20:40 「山の上であって何と麗しいことであろう」

• 十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は、「よきおとずれを伝え、平和を告げて広め〔る〕……者の足は、山の上であって何と麗しいことであろう」という表現豊かな言葉は、主の福音を広める人々を指してはいるものの、より具体的には、救い主御自身を指していると教えている。「聞き慣れたこの言葉を初めて記したのはイザヤですが、靈感をお与えになったのはエホバ御自身です。この言葉は、人々に福音のよきおとずれを伝え、平和を告げて広めるすべての人、特に、宣教師によく当てはまります。そのように当てはめても、問題はまったくありません。しかし、預言者アビナダイと同様、気づかなければ



© 1987 スコット・スノー

ならないことがあります。それはこの感謝の賛美歌が、最も純粋な形としては、また、本来の意味からすれば、特に、キリストに当てはまるということです。最終的に救いのよきおとずれを伝えるのはキリストであり、キリストだけです。キリストを通じてのみ、真

の永続する平和が伝えられるのです。新旧両エルサレムのシオンに、『あなたの神が統治しておられる』と宣言するのもキリストです。美しいのは、まさしく、贖いの山の上に立つ主の足なのです〔3 ニーファイ 20:40〕。』(Christ and the New Covenant [1997 年], 286)

### 3 ニーファイ 20:41 「主の器を担う者たちよ、清くあれ」

• ジェフリー・R・ホランド長老は、神権者は清くなければならないという言葉の意味について、次のように教えている。「わたしたちが神権者として神聖な器と神の力の象徴を扱うだけでなく——例えば、聖餐の準備、祝福、それにパスを考えてみてください——わたしたちも同様に聖められた器になる必要があるということです。わたしたちが行うべきことを示すためだけでなく、さらに重要なことはどのような者になるべきかを示すため、使徒や預言者たちはわたしたちに、『若い時の情欲を避けなさい』、また『きよい心をもって主を呼び求め』なさいと命じています〔2 テモテ 2:22〕。清くあるようにと命じているのです。』(『リアホナ』2001 年 1 月号, 48)

古代において礼拝の神聖な器を扱う人々に与えられた「主の器を担う者たちよ、清くあれ〔りなさい〕」(3 ニーファイ 20:41) という命令は、現代の神権者にも当てはまる。ゴードン・B・ヒンクレイ大管長(1910 - 2008 年)は、集合する神権者にこの大切な命令を思い起こさせるため、次のように語っている。「『主の器を担う者たちよ、清くありなさい。』(教義と聖約 133:5) 主は近代の啓示の中で、わたしたちにこう言われました。肉体も、心も清くあってください。言葉遣いにも清くあってください。服装や態度の面でも清くあってください。』(『聖徒の道』1996 年 7 月号, 57)

ヒンクレイ大管長は次のようにも助言している。「入れ墨は肉体という神殿に書きなぐられた落書きです。体にピアスを付けるのも同じです。』(『リアホナ』2001 年 1 月号, 114 参照)

十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老は、若人に「下品な話を避け、友達を賢明に選び、ボルノグラフィーや違法な薬物を避け、俗悪なコンサートや危険なパーティーに参加せず、肉体を大切にし、あらゆる面で道徳的に清く」あるようにと勧めている(『リアホナ』2001 年 7 月号, 81)。

### 3 ニーファイ 21:1 - 9 末日におけるイスラエルの集合

• イエスはニーファイ人に、イスラエルの集合が始まったことを知るための「しるし」(3 ニーファイ 21:1) を与えると告げられた。それから、福音の回復、モルモン書の出現、アメ

リカにおける自由国家の樹立、そしてイスラエルの子孫への福音の伝道を預言された(1 - 7 節参照)。イエスは末日における回復の業を「大いなる驚くべき業」と呼ばれた(9 節参照)。回復の初期の時代に、救い主は「さて見よ、驚くべき業が、まさに人の子らの中に現れようとしている」と言われた(教義と聖約 4:1 参照)。

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は、回復の奇跡について、また、この業を推し進めるべきわたしたちの責任について次のように語っている。

「御父と御子が少年ジョセフに御姿を現され、栄光に満ちた福音の時代の幕が切って落とされたのです。こうして世界は、時満ちる神権時代の夜明けを迎えました。過去のすべての神権時代に存在したすべての善なるもの、美しいもの、神聖なものが、この最も注目すべき時代に回復されました。……

わたしたちはほんとうに理解しているでしょうか。与えられているものが持つ途方もなく大きな意味を理解しているでしょうか。……

この世代に生きるわたしたちは、すでに過ぎ去った全人類の最後の収穫です。ただ単にこの教会の会員として名を連ねるだけでは不十分です。厳粛な義務が課せられています。この義務を正面から受け入れ、取り組もうではありませんか。

すべての人を慈しみ、キリストに真に従う者として生活し、悪に対して善で報い、模範によって主の道を教え、主が指し示された広範囲にわたる奉仕の業を達成しなければなりません。』(『リアホナ』2004 年 5 月号, 82 - 84)

• イスラエルの集合についてもっと知りたい場合は、付録から「イスラエルの集合」(400 ページ)を参照する。

### 3 ニーファイ 22 章 イザヤは集合について教えるために神聖な比喩的表現を用いた

• 救い主はイスラエルの集合についてさらに詳しく教えるためにイザヤ 54 章をそっくりそのまま引用しておられる。預言の書でよく見られる比喩的表現を用いて、イザヤはイスラエルを主が夫である女性にたとえている。この女性は、しばらくの間罪悪のために捨てられるけれども、憐れみ深い「夫」のもとへ帰る時が来る。この比喩的表現を用いて、イザヤは次々と現れる回復の奇跡を美しく描写している。イスラエルは、子孫の数が増すにつれて、その天幕を広げ、その杭を強固にし、増え続ける家族に生活の場所を提供することができるとイザヤは約束している(3 ニーファイ 22:1 - 3 参照)。結婚の聖約に伴う神聖な決意が思い起こされ、主は



イスラエルに対する御自身の献身がどれほど深いかを明らかにされる（4－10 節参照）。イスラエルは安全で美しい場所（11－12 節参照）と敵からの守りを約束されている（13－17 節参照）。

### 3 ニーファイ 22：13 「あなたの子孫は……主によって教えを受け〔る〕」

• パトリシア・P・ピネガー姉妹は、中央初等協会会長として奉仕していたときに、現代において子供を教える際の指針として、3 ニーファイ 22：13 を



どのように生かすことができるか説明している。「世界は安全な場所ではありません。子供たちが救い主を愛し、救い主に従うことを教わらなければ平安と希望と導きを感じる場所はありません。どうぞこれらの偉大な祝福を自分のものにできることを彼らに知らせ、またこれらの祝福を得るために何をする必要があるかを彼らに示してください。」（『リアホナ』2000 年 1 月号, 81－82）

### 3 ニーファイ 22：17 「あなたを攻めるために造られる武器は、まったく役に立たない」

• 主の業に戦いを挑む人々はいつの時代にもいた。しかし、イザヤが約束しているように、わたしたちに反対するいかなる試みもうまくいったことはなかった。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、反対者の働きは無に帰すると教えている。

「これが主の業であることが確かであるように、反対者の

出現も確実です。人を欺く<sup>きべん</sup>詭弁や巧みな計略で疑いを広め、この業の立つ土台をひそかに損なおうとする者が、恐らく少なからず現れるでしょう。彼らは短いながら日の目を見ることもあるでしょう。短期間でも、疑い深い人、懐疑的な人、批評家たちの喝采<sup>かつさい</sup>を浴びることもあるでしょう。しかし、そのようなたぐいの人は過去もそうだったように、やがて色あせ、忘れられてしまうでしょう。

一方、わたしたちは批判を受け、彼らの言動に気づきながらも、阻止されずに前進するのです。」（『聖徒の道』1994 年 7 月号, 61 参照）

### 理解を深めるために

- 救い主はイスラエルを集め、天の御父が彼らの先祖と交わされた聖約を成就すると約束しておられる（3 ニーファイ 16：5, 11；20：12－13 参照）。これは広範囲に及ぶ約束でありながら、きわめて個人的な意味合いもある。あなたの親族で最初に改宗した末日聖徒の経験についてどのようなことを知っているだろうか。彼らは聖徒とともに集まるために、どのような犠牲を払っただろうか。
- どのようなときに、天の御父が手を差し伸べてあなたの心に触れ、あなたをみもとへと引き寄せられるのを感じたことがあるだろうか。

### 割り当ての提案

- 日々の生活で聖餐<sup>せいさん</sup>の意味をさらに深めるにはどうすればよいか、計画を作成する。自分の目標を達成できるよう手伝ってくれるだれかと自分の計画を分かち合う。
- この末日にあって、イスラエルの集合を助けるために自分には何ができるか、少なくとも 3 つの活動を挙げる。